

梗 概

20x20

んかたくなつた妻と惚ぼせる娘は昔の想い
 出とか冬^{ふゆ}えと、ときか^お道つにっ水てそ水は
 一つの^{ひとつ}_{あな}しいあこがれとなつた。
 マサオと同いよろに^{あひだ}あひだの人々頭である
 粗野で無口で^{頑強}なアツトリオ、かんこマ
 もきらいな月平娘の異国情緒の名義しさと優
 しさに促く惹かれてゐる。
 裏^{うら}面にはいふでは又ケダ、セウウニウの
 若さと秋と^ち手脈によつて豊かに存じすら
 すりと日平人から伯の農村を流に流すにむ

こゝに^ハあり二つの由^レ偏^ハあり金く^レ異^ハつゝ民族
 文化を^レ混在^ハせしことに^レなつた
 例え^ハば日本人^ハも^ハか^ハ農園^ハ主^ハの邸^ハ宛^ハで^ハ
 “^ハ又^ハ夕^ハ學^ハり”^ハを^ハ説^ハく^ハと^ハす^ハれば^ハハイアノ^ハも^ハ
 は^ハ草^ハ子^ハや^ハ地^ハを^ハな^ハる^ハも^ハつゝ^ハ主人^ハも^ハの^ハ好^ハ意^ハ
 に^ハ従^ハひ^ハる^ハも^ハめ^ハ農園^ハの^ハ街^ハ小^ハ屋^ハの^ハ中^ハで^ハ賑^ハやか^ハ
 で^ハ遊^ハび^ハい^ハい^ハア^ハン^ハバ^ハレー^ハを^ハな^ハせ^ハて^ハや^ハつ^ハた^ハか
 せん^ハな^ハと^ハオ^ハグ^ハン^ハと^ハな^ハつ^ハて^ハ着^ハ飾^ハつ^ハた^ハア^ハン^ハト
 ニ^ハオ^ハかん^ハこ^ハア^ハかん^ハ人^ハ目^ハと^ハひ^ハい^ハた^ハ
 二つの^ハも^ハよ^ハお^ハし^ハは^ハり^ハス^ハム^ハや^ハ音^ハ律^ハ歌^ハ曲^ハや

踊^ハり^ハと^ハ交^ハる^ハ交^ハる^ハ異^ハ地の^ハ暑^ハい^ハ夜^ハに^ハ二^ハつ^ハの^ハ民^ハ族^ハ
 の^ハ神^ハ秘^ハさ^ハを^ハま^ハま^ハ教^ハへ^ハし^ハ近^ハ頃^ハは^ハハイアノ^ハが^ハサ
 エ^ハり^ハに^ハよ^ハせ^ハる^ハ胸^ハ中^ハの^ハあ^ハこ^ハか^ハれ^ハか^ハれ^ハと^ハな^ハつ^ハ
 て^ハま^ハす^ハま^ハす^ハ混^ハく^ハな^ハつ^ハた^ハや^ハエ^ハう^ハこ^ハい^ハう^ハと^ハかん
 こ^ハア^ハの^ハ感^ハ情^ハの^ハ満^ハち^ハを^ハ深^ハめる^ハよ^ハう^ハに^ハな^ハつ^ハた
 3. ある^ハ夜^ハや^ハエ^ハう^ハこ^ハい^ハう^ハが^ハお^ハ同^ハじ^ハ旅^ハに^ハ出^ハ
 る^ハ満^ハち^ハに^ハマ^ハサ^ハオ^ハと^ハサ^ハエ^ハり^ハは^ハ山^ハ村^ハの^ハ夜^ハの^ハ美^ハし^ハ
 さ^ハに^ハ満^ハち^ハの^ハ水^ハが^ハエ^ハう^ハこ^ハい^ハう^ハに^ハ出^ハて^ハ遠^ハい^ハ故^ハ郷^ハの^ハ
 こ^ハと^ハな^ハお^ハし^ハは^ハり^ハス^ハム^ハや^ハ音^ハ律^ハ歌^ハ曲^ハは^ハ若

と云つた。
アントニオ・カルシアはしばらくやくと
土の道端に一人^独りゐる。カンカセイの
いと救ふを求めた。彼は年を^経てやうに
か死ぬすきにそのカンカセイはマシガ、
ロサにゐる彼の家族とシヤバ、タ、
エマと方角を彷徨する地帯で有名な匪賊の
首領アパリシア、メイジェレスに^彼の死を
伝えるようにしたので。
アトニオ・カルシアはやがて約束を果

手ぬぎにマシカ、一カハ着、ムカ不覚に
 死んだカシカセ、口の鏡や得丸帯や持ち
 物と^手ずんでくつゝ、こので、そこに^手騎走する幾兵
 五、手に手荒く捕えられ、彼を^手匪賊の一人と見
 て怒鳴りこす。かれは、華句留置^手込へ、ム、冬に
 来れぬ。
 政は、水ぬり取と、か、冬水い、し水ぬ、ど
 うに、し、な、ぬ、憎、^手罪を叙めて、数日の後、バイ
 アノは脱出に成功し、匪賊の群を撃ち、あて
 こんで、会談し、冬、つぼりと、^手新、い、^手五、^手流、を、^手

み、土、い、^手、
 4、その^手間、日本人の^手農、い、は、土地は、^手新、
 い、^手作、物、は、^手覆、わ、水、^手家、畜、と、飼、育、は、ま、す、ま、す、^手増、
 え、タ、ケ、^手カ、^手マ、^手ヨ、^手シ、^手ウ、の、^手手、^手堅、い、^手洗、^手炭、に、^手よ、
 っ、て、^手農、^手い、は、^手学、え、ぬ、
 買、ある日、^手マ、^手ヨ、^手シ、^手ウ、は、^手新、い、^手農、^手機、^手板、を、
 買、^手ム、^手メ、に、^手首、^手都、へ、^手出、^手か、^手け、^手農、^手い、は、^手新、い、^手人、
 夫、^手顔、^手ベ、^手ー、^手ト、に、^手、^手、^手ワ、^手ケ、^手か、^手海、^手舟、を、^手あ、^手す、^手か、^手つ、^手て、
 い、^手ぬ、^手、^手す、^手る、と、^手お、^手し、^手、^手い、^手か、^手け、^手を、^手く、^手、^手い、^手ま、^手で、^手は、

20x20

ソール・ナツセンテ経済研究所 川箋

發兵隊と擧會つて死んだアハリエオ、マイ
 レーレスの娘^娘とよつたアレトニオ、か
 んエアも首領とする匪賊の群か恐怖をまき
 散らしながら果した。
 つかのまに、^娘人かの雇用人の^娘娘^娘を^娘娘
 ながへてアは^娘娘^娘の^娘娘^娘に入り込みサエ
 りを隠した。そのとき^娘娘^娘の^娘娘^娘の^娘娘^娘
 か危中に短刀をかざしてゐるのと見て一
 のれとに^娘娘^娘を^娘娘^娘した。サエは足を失つ
 た。かんエアは彼女を抱きかゝえ戸木の

中から彼女が日本から持ってきたかつては
 彼女が^娘娘^娘した。そのある美しい、はてやかを
 着物を取り出した。彼女を両腕に抱いて^娘娘^娘
 への^娘娘^娘に出ると、いふいふ出かけるとさ
 になつてペーに、^娘娘^娘の^娘娘^娘に^娘娘^娘自分
 は娘をとりに戻つて果たぬのであるにと
 は本人に申伝へる^娘娘^娘に^娘娘^娘の^娘娘^娘。
 まもなく^娘娘^娘に^娘娘^娘を^娘娘^娘と^娘娘^娘の^娘娘^娘
 えて、いふ日本娘ととりに^娘娘^娘えさつた。

5. 旅から帰った日、^ウエ^ウは、この懐
 を目つ。ま^リハ^ン。用就は死に要は葉ハ
 ン。懐思と無^知の中、日本人は馬を飼育
 せ^ルの^大から日本か^武持^者、^一古、^一行李を
 採してくると、^身武^者ル^ルハ、^ハイ^アの^具
 地と北^部の各地を横断する長、^壯に^激
 色^を、^ハ。
 其の^大、^匪賊の群に因^害ル^ル、^北を^導
 へ^ル、^サ、^リは^長、^ハ、^海を^し
 のとして、^ア、^ハ、^家に^招

ったか、と、^日、^本の^情、^海に^入、^人の^若
 つけ、^セ、^ハ、^花、^と、^ハ、^入、^て、^ハ
 又、^ウ、^エ、^ハ、^紙、^を、^深、^く、^傷、^目、^に、^ハ、^サ、^カ
 ン、^ア、^ハ、^後、^を、^通、^つ、^て、^山、^野、^深、^く、^路、^を、^ハ、^北、^部
 の人々の^解、^奇、^心、^を、^よ、^ん、^で、^ハ、^カ、^ヤ、^カ、^て、^得
 らは^匪、^賊、^を、^通、^つ、^ハ、^道、^を、^教、^え、^る、^よ、^う、^に、^な、^つ、^ハ
 既^に、^軍、^兵、^隊、^と、^接、^し、^て、^ア、^レ、^ト、^エ、^オ、^カ
 ル、^ア、^ハ、^失、^神、^し、^ハ、^カ、^ヤ、^カ、^て、^正、^気、^に、^帰、^る、^ハ、^タ
 ハ、^一、^人、^山、^林、^の、^端、^に、^ハ、^ハ、^カ、^つ、^ハ、^シ
 かし、^す、^が、^{その}、^所、^と、^ハ、^ヤ、^す、^く、^地、^を、^ハ、^シ、^の

できるサエリウ足裏を司いゝるか役女は役の
 他わを平者するゝんは役の傍にゐん。それか
 らしばらくゐつて盗賊団は再編築して急襲
 した遠隔の村で徳も害してゐるとき、食
 料を運んでゐる日傘娘は密の人夫頭の人に
 よせ役は燃えろよろを欲情で役女を抱くの
 である。
 外には、荒れに通りの端手に月夜に照さ
 れる夕ヶ夕、又ヨウじにうの影が影にかさ
 ばる人は盗賊団の跡を追つてゐるかよう

也く思ふしゝ、仇敵に逃り金、攻撃の好機を
 狙いて、忍耐を待つてゐる。
 6、この村はやかたカアケに遠く、
 五里にわたる村に、の婦女子を連れた盗賊団が
 一休みしたとき、
 又ヨウじにうは、その五里に、
 かく、攻撃の機会が、その、
 月夜より、行方を外し、
 るより、この水を、その、

着然に眼にて武士の刀が不気味に笑ふ
 我はうしろに
 も取除き
 けを
 願と
 で神の姿と髑髏をせよか
 女と戯れおそいに興い
 酒を飲んでいす
 とんと不意に刀を抜いて丘の上から
 神のよるに跳びながら夕ヶけ、我はうしろ

けうの狼つゝ姿か猥褻の真ん中へ
 は赤しい怒号となつて飛び下りた。
 土をけりやゝゝをけりやゝで一人の武士に
 ある日本人は唾^だと吐き、火酒の盃^はをつち
 踏^ふつた。顔で防禦をすゑるやゝゝかゝる
 の上へ電光のよりに飛びかゝつた
 日本人は狼のよりに飛び移り^移けりや肉を傷
 つけ血滴りの地上にころかした
 そのときサツリを走らせて其処へ果てた
 トニオ、かゝるアホおとゝかきやゝ日本人

の姿と見ると長い山刀を抜き死闘に参入
 が、二人は互に倒れ合ったまゝ、歩を進め
 眼と眼をにらみ合ふ。相手の力をはか
 刀と山刀、武士とカレカレ、男と男が
 憎悪と憤怒の情を注ぐの心：
 不意に又もう一歩は両手で刀を上げ
 侮え一撃をこゝろみて突進し、おと
 シアはふらふらと身をかわし、これ山刀と
 振りかぶる。おとしは決闘は火花を散ら
 し、陰惨に死闘の狭みに入る。この場は

大バサリと切りかゝる。傍観者である。
 鉄と鉄の音が、高かぶつ、かり、
 つかひんと、月夜の雲と、律動が昇る。この
 ときもう一歩は武士の鉄剣の音、
 昇る。不意に人夫の致命の一刀を流し
 了、かんシアは胸にさす。傷の穴に血が
 湧き出、山刀を手に、鉄と、傷口から
 血が流れて、ついでに、ついでに、うめき
 する。武士は最後のとどめをさす
 かと、と、やりかけて止める。

是れは我より二口うか息をえおえり力レか
 せいこの頭を膝の上にたかきんめり来るよ
 うにして逃げつゝくさしユリをえんからひあ
 った。あまのいとう水立をすくんと人む日本人はす
 べてを理解せん。ゆつと下中な。
 かんこアは息をひきとるすきに、情をこ
 めて日本人の頭と比べぬ。女の頭にははかつ
 てくら水な、若抱の影があつた。そして頭
 と仰すと死んだ。
 又田より二口うは驚きのま、驚きながらす

二人の傍に立つて女のしる情しきと情しき、
 侮蔑と若抱の眼とほいぬ。やかて力レかせ
 いこの山刀をさすやま傷はか血に流しは今人
 はよろけるがすぐにな通り。数歩下ると日
 本武にひきまふ死を決して眼のまを腹に
 あてる。日本人はこれ一なる奇異を眼でさし
 りをじつとえつめる。そして力をしほり
 胸を腹部に差入れ、云々、倒れ死んだ。
 影の近くでユリは力レかせいこの頭を
 抱ひながら、黒い風が顔にさす。力のまを

カニカセインとサムライ
 記録映画
 昭和26年2月4日
 エドワード・サトス・ポレイス 著
 映画「サリイ・コニク」の件
 本公式文書として1945映画院から1945年

6月16日付 省令49によつて制定された金12
 長篇映画の原作「サリイ・コニク」の
 脚本家としての決定により、脚本家として入選した
 こととお知らせ申し上げます。 貴下の「サリイ
 「カニカセインとサムライ」は、オタロ、
 フォリー、レイト、ビブ、アム、エドワード・サトス、
 エイ、アボ、カニカセイン、アサ、ダ、アサ、カニカセイン（
 人選）からなる脚本家としての入選した
 6篇の中の一つであります。
 貴下にお知らせするようには、この

20x20

ソール・ナツセンテ経済研究所 川端

コレが、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

せ 踏 み 入 れ 込 め 入 り 方 著 者 フ ォ ン ・ マ ン ガ ウ ス
 か い 、 う く し れ 方 に “ 恐 怖 の 林 野 ” 即 ち
 “ お そ ろ い 山 村 ” こ れ 林 分 の ひ ち ぢ
 度 の と こ ろ 、 こ の 粗 野 糸 風 揚 は し ば し 林
 野 期 に 入 る と 落 葉 下 雨 如 水 左 矢 木 を 連 綿
 と せ ぶ の ひ ち ぢ
 子 記 念 的 祭 典
 此 例 の 内 陸 地 帯 は ア カ リ 工 、 リ マ 、 今 、 又 リ マ
 か い う 方 に 一 院 以 外 良 地 時 次 か ら 記 念 か

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ら | 放 | 逐 | さ | れ | る | 有 | 名 | を | 匪 | 賊 | と | の | 血 | を | 求 | む | さ | い |
| 然 | い | の | 新 | 兵 | に | あ | つ | た | ・ | 地 | 方 | 大 | 地 | 主 | の | 叔 | 力 | を |
| い | や | ・ | 奇 | 蹟 | を | 戸 | 懸 | 、 | サ | レ | フ | ヲ | レ | ニ | ス | コ | 川 | に |
| 歩 | の | 使 | 民 | を | 若 | し | め | た | 執 | 柄 | や | 流 | 行 | 痕 | 、 | 無 | 知 | ・ |
| 文 | 音 | ・ | 道 | 路 | や | 運 | 船 | の | な | い | こ | と | か | 祖 | 師 | を | 出 | た |
| の | 使 | 民 | を | か | る | く | な | に | 1 | 差 | 別 | を | 水 | を | 採 | い | と | し |
| 得 | た | を | か | つ | た | ・ | | | | | | | | | | | | |
| ・ | 最 | 近 | の | 強 | 兵 | は | よ | れ | ば | カ | レ | カ | セ | イ | ル | の | ヲ | ○ |
| も | は | 復 | 讐 | 心 | か | ら | 匪 | 賊 | の | 復 | 讐 | と | な | つ | た | と | い | わ |
| れ | ・ | 追 | い | つ | 追 | わ | れ | つ | し | て | カ | レ | カ | セ | イ | ル | は | |

戦後

| |
|---|
| ブ | ラ | ・ | い | ん | の | 中 | に | 血 | と | 強 | 兵 | の | 道 | を | 求 | む | さ | い | の | て |
| あ | る | ・ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 配 | 食 | の | 最 | も | 貪 | に | 経 | い | 階 | 層 | か | ら | 出 | た | も | の | | | | |
| で | 大 | 作 | に | 農 | 村 | 出 | 身 | が | 多 | く | ・ | そ | の | 農 | 村 | を | 支 | 配 | す | |
| る | 富 | 強 | を | 若 | 、 | 叔 | 力 | の | あ | る | 者 | ・ | 族 | 長 | 政 | 治 | ボ | ス | | |
| 大 | 地 | 主 | に | 対 | し | て | ・ | 常 | 盤 | り | と | 復 | 讐 | 心 | を | 抱 | い | て | | |
| い | た | も | の | で | あ | る | ・ | 農 | ・ | 者 | の | 多 | く | は | ノ | 2 | 支 | か | | |
| ら | 3 | 日 | を | 子 | で | て | ・ | 匪 | 賊 | の | 中 | に | は | 白 | 黒 | ・ | 影 | | | |
| 黒 | ・ | 半 | 黒 | と | 黒 | の | 農 | 兵 | ・ | 王 | 一 | の | フ | ハ | 系 | の | 金 | 銀 | | |
| 米 | で | い | た | も | の | で | あ | り | ・ | 一 | 般 | に | 盤 | り | や | す | く | | | |

24.

錯

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 能 | に | い | ん | と | 敵 | を | 暴 | 力 | に | 現 | を | 現 | す | る | 。 |
| 5 | 代 | 方 | と | 小 | 島 | 明 | | | | | | | | | |
| | カ | レ | カ | セ | イ | ン | ノ | 中 | に | ハ | レ | エ | ズ | イ | ノ |
| | リ | ヤ | レ | テ | の | 方 | に | 毫 | 地 | の | 口 | に | レ | ハ | ノ |
| | い | く | 金 | や | 食 | 料 | と | 盗 | み | こ | れ | を | 他 | 方 | の |
| | 中 | で | や | つ | と | | | | | | | | | | |
| | 川 | 縁 | を | も | ち | 隠 | れ | た | 他 | の | 隠 | れ | た | 小 | 島 |
| | に | ハ | レ | エ | ワ | ク | を | 保 | つ | た | り | 他 | の | 隠 | れ |
| | た | | カ | レ | カ | セ | イ | ン | ノ | 中 | に | ハ | レ | エ | ズ |

警察官

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| こ | ろ | で | 金 | に | 隠 | れ | て | 盗 | み | 水 | を | 盗 | み | 。 |
| 隙 | を | し | 隙 | を | や | 半 | 車 | の | 軌 | を | 盗 | み | た | 。 |
| 花 | を | 盗 | み | た | こ | れ | を | 盗 | み | た | 。 | | | |
| い | 角 | を | 相 | 手 | に | 盗 | み | た | 。 | 金 | を | 盗 | み | た |
| つ | た | 保 | れ | た | 。 | 歩 | い | た | 。 | 警 | 兵 | 隊 | か | ら |
| 銃 | を | う | つ | た | 。 | サ | レ | カ | ン | の | 隠 | れ | た | 。 |
| こ | ん | に | り | と | し | た | 。 | カ | ア | キ | レ | カ | の | 突 |
| 用 | 心 | 深 | く | 盗 | み | た | 。 | 探 | 察 | に | 対 | し | て | 盗 |
| い | い | ず | 水 | の | 側 | 面 | に | 盗 | み | た | 。 | 防 | 係 | を |
| 盗 | み | た | 。 | 盗 | み | た | 。 | 盗 | み | た | 。 | 盗 | み | た |

20x20

ソール・ナツセンテ経済研究所 川端

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 天 | 是 | の | 外 | に | は | 十 | 文 | 字 | の | 端 | 意 | 等 | を | 加 | す |
| 揚 | 命 | の | 大 | 衆 | に | は | 降 | 死 | 、 | 葉 | 名 | 、 | 若 | 然 | え |
| ハ | コ | 、 | マ | ツ | ク | 、 | 武 | 是 | 揚 | 降 | 同 | の | 針 | 意 | を |
| 水 | に | い | ん | 、 | 衣 | 服 | は | 精 | 、 | 混 | 色 | と | 花 | 星 | の |
| あ | つ | ん | 、 | か | お | し | は | 麻 | に | は | 入 | り | の | 足 | 印 |
| 糸 | の | ハ | に | の | ク | を | 前 | に | 巻 | き | 足 | 様 | を | 陰 | や |
| ハ | に | 入 | る | に | 記 | 号 | や | メ | タ | ん | 、 | リ | お | し | 足 |
| 解 | の | ボ | ク | に | 色 | 望 | の | の | 足 | 意 | を | と | い | 飾 | つ |
| の | し | 皮 | の | 帳 | 子 | を | 加 | つ | ん | 、 | カ | に | か | せ | い |
| 指 | 指 | 指 | 指 | 指 | 指 | 指 | 指 | 指 | 指 | 指 | 指 | 指 | 指 | 指 | 指 |

始

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 解 | 環 | 子 | と | を | 作 | り | 来 | る | 十 | 字 | 型 | や | 、 | 為 | 解 | 、 |
| 金 | 衆 | の | メ | カ | ん | 、 | 武 | 是 | 揚 | 降 | 同 | の | 針 | 意 | を | 加 |
| う | ハ | コ | 、 | マ | ツ | ク | 、 | 武 | 是 | 揚 | 降 | 同 | の | 針 | 意 | を |
| 9 | ア | ラ | シ | ン | 映 | 画 | に | 現 | れ | る | カ | レ | カ | ッ | ソ | |
| カ | レ | カ | ッ | と | い | う | 次 | に | 取 | ら | れ | る | 映 | 画 | で | は |
| リ | マ | ハ | レ | ツ | ト | の | 「 | ア | カ | レ | カ | ッ | と | い | う | 次 |
| カ | レ | マ | ハ | レ | ツ | ト | の | 「 | ア | カ | レ | カ | ッ | と | い | う |
| 秀 | 呂 | 、 | 新 | 衆 | に | は | 新 | 衆 | と | は | 新 | 衆 | と | は | 新 | 衆 |
| 時 | を | は | ら | い | ん | 、 | 二 | の | 外 | に | は | 二 | の | 外 | に | は |

9/5

22.

いふ元凶は他の反戦といふ所へ根元には
 此の救済人、経済的命家、地方農民の保
 及（早稲から腰出する農民）
 “神祕的”で野暮に同時の正義者であり犯罪
 者である。カレカセインはカウボーイとサウ
 ーイととルの少年ととルカウボーイ人の眼に
 眼裏の大きさをヒールとして三位一位に
 眼のついでである。
 “三つの英雄”が同時の同じように見え、
 すがらうのてある。カウボーイは不敵の奇銃

を、サウーイは刀を、そしてカレカセインは
 刀とカウボーイの銃を握る。
 “カウボーイ”は何人とも争いある。その
 早稲（稲）と孤立したものである。サウー
 イは、通五義者の身をもとめえらる。に
 ある。その他のもののように入道五義者と
 して位を認めない。彼自身の稼かあるがら
 である。カレカセインは現由をわきまえて
 一人の反戦者である。頭連で後輩の心
 である。彼は、身内の名が也常盤兵や野に象の

金持の映画は、用ひ稀に新々山から出て
来り。
資料 四
「ワザウー」の映画は親
最近の「ワザウー」の映画は親
とて、この「ワザウー」の映画は親
市場には、大
部、金持ち、人、比較する、

[illegible]

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|----|----|---|---|---|---|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 映 | 画 | 展 | 中 | 3 | 映 | 画 | 展 | 中 | 3 | 映 | 画 | 展 | 中 | 3 | 映 | 画 | 展 | 中 | 3 |
| E | M | B | R | A | F | I | C | M | E | 提 | 供 | の | 資 | 料 | は | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 1 | 9 | 7 | 5 | 年 | 内 | の | 映 | 画 | 市 | 場 | の | 動 | 向 | を | 示 | す | 。 | | |
| 7 | 上 | 映 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 1 | 映 | 画 | 市 | 場 | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | 20 | 1 | | | | | 100 | | | | | | | | | |
| | | | | 35 | 14 | | | | | 2888 | | | | | | | | | |
| | | | | 18 | 27 | | | | | 351 | | | | | | | | | |
| | | | | 合 | 計 | | | | | 3339 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--|--|---|---|---|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|---|---|--|--|--|
| | | 2 | 映 | 画 | 市 | 場 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 合 | 計 | | | | | | 275 | 380 | 446 | (7) | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 3 | 映 | 画 | 市 | 場 | | | | | | | | | | | | |
| | | | 日 | 映 | 画 | | | | | 174 | 836 | 594 | (7) | | | | | |
| | | | 日 | 映 | 画 | | | | | 790 | 528 | 555 | (2) | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | Ⅱ | 上 | 映 | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | リ | オ | の | ハ | サ | レ | バ | ウ | の | テ | 上 | 映 | 画 | | | |
| | | | 映 | 画 | 市 | 場 | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|---|-----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| レ | シ | フ | エ | 。 | ポ | ン | ト | ア | レ | カ | レ | ム | ム | イ | ウ | ニ | フ | レ |
| ワ | ト | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| IV. | 機 | 器 | と | 能 | 力 | 。 | | | | | | | | | | | | |
| | の | 高 | 速 | 化 | の | 功 | 能 | 。 | 映 | 画 | 機 | の | 機 | 能 | の | 増 | 進 | は |
| 機 | 能 | の | 高 | 速 | 化 | の | 功 | 能 | 。 | 映 | 画 | 機 | の | 機 | 能 | の | 増 | 進 |
| で | か | ら | レ | ル | 映 | 画 | 機 | は | 機 | 能 | の | 増 | 進 | を | も | た | ら | る |
| こ | の | 一 | 方 | と | 近 | 代 | 的 | な | 装 | 置 | を | も | た | ら | る | に | な | る |
| た | | 16. | | 5 | 5 | ミ | リ | ム | ム | 機 | 能 | の | 増 | 進 | を | も | た | ら |
| た | 也 | サ | レ | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 |

| |
|---|
| レ | シ | フ | エ | 。 | 自 | ら | カ | ラ | ー | (| イ | ー | ス | ト | マ | レ | カ | ラ | ー |) |
| ワ | イ | レ | ル | 。 | 映 | 画 | 機 | の | 機 | 能 | の | 増 | 進 | を | も | た | ら | る | に | な |
| ラ | ボ | ラ | ト | リ | ー | ガ | カ | ラ | ー | レ | ル | で | 操 | 作 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | |
| 4 | 機 | 能 | の | 増 | 進 | を | も | た | ら | る | (| R | E | X | . | L | I | D | E | R |
| R | E | V | E | L | A |) | 。 | 1 | 機 | 能 | の | 増 | 進 | を | も | た | ら | る | に | な |
| イ | ー | ス | ト | マ | レ | カ | ラ | ー | (| 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | |
| レ | フ | レ | カ | ラ | ー | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | |
| " | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | 。 | |
| 映 | 画 | 機 | の | 機 | 能 | の | 増 | 進 | を | も | た | ら | る | に | な | る | 。 | | | |
| 。 | |

GERALDO SANTOS PEREIRA

Geraldo Santos Pereira was born in Minas Gerais, Brazil, where performed as a journalist, and graduated in Law, besides founding the Minas Gerais Film Club, practicing film critics and making documentary films.

With a French Government Scholarship, he left to Paris where attended the "Institut des Hautes Études Cinématographiques" (Film making and Production), 1949-1951), and Contemporary Literature, in Sorbonne.

When he came back to Brazil, in 1951, he worked as 1st. Direction Assistant in "Vera Cruz Film Company", São Paulo, as journalist in "Folha de São Paulo" and, in 1957, directed the color picture "Rebelião em Vila Rica", exhibited in Brussell Film Festival, 1958.

When he came to live in Rio de Janeiro, when he worked at the Education and Culture Secretary Cabinet; was secretary of "Gouvernement Film Commission" and "Grupo de Estudos da Indústria Cinematográfica" (Group of Research of Film Industry), and then he made several documentary films.

In 1965, he directed "Grande Sertão", based on the book "Grande Sertão: Veredas", by João Guimarães Rosa. In 1970 he directed "Balada dos Infiéis", a feature film in "Eastmancolor", and in 1976, in co-production with Embrafilme, the very well-succeeded "O Seminarista", one of the greatest hits of the modern Brazilian cinema.

Also in co-production with Embrafilme, he directed "O Sol dos Amantes" (The Sun of Lovers). In 1976 his script of "O Cangaceiro e o Samurai" conquered the first prize of a competition sponsored by Brazilian Government.

Geraldo Santos Pereira was, for a long time, 1st. Secretary of Brazilian Union of the Film Industry and is the author of the books "Plano Geral do Cinema Brasileiro", "O Sol dos Amantes" and "Ciranda Barroca".

In 2000 Geraldo Santos Pereira directed "O Aleijadinho", not released in the Brazilian film market, and prepares "O Cangaceiro e o Samurai" and "Ciranda Barroca", his new features productions.

Geraldo Santos Pereira lives in Belo Horizonte, State of Minas Gerais.



CANDOMBLÉ



OGUM —



IANSÃ —



ANAMBURUCU OU NANÃ —



OXOSSI —



OXUMARE —



OXALUFAM —